

# 目次

序言	1
はじめに	3
一 研究動機と研究の方向	3
二 構 想	6
三 用語、記述上の統一事項および史資料	8
四 過去に、学術雑誌に発表した精神教育に関連する論文	11
五 過去の関係上梓研究書	12
第一章 明治初期の軍刑律の性格	13
第一節 「海陸軍刑律」の性格と「軍律」・「読法」との関係	14

筑波大学教授 波多野 澄雄

一 「海陸軍刑律」の性格概要	14
二 「海陸軍刑律」への中継ぎとしての「軍律」の役割	20
三 軽い刑罰としての懲戒の考え方	23
四 「読法」の制定とその意義	24
第二節 「陸軍諸法度」の性格	29
一 「陸軍諸法度」から「軍律」への道筋	29
二 戦国時代の法度と戊辰の役の法度の関係	32
第三節 幕末から明治初年の軍紀維持施策の実例	34
一 幕末の日本式軍令の実際	34
二 長州藩奇兵隊の軍令	37
第四節 日本式の法度・軍令・軍法から洋式規則への転化	38
一 戊辰戦役の法度・軍令の性格	38
二 新政府陸海軍の制度の洋式化	39
第二章 不軍紀の象徴、竹橋事件の原因	47
第一節 近衛兵俸給の減額の影響	47
一 財政難の影響	48
二 近衛砲兵の俸給減額への不満	49
第二節 西南の役論功行賞の遅れの影響	51
一 手続き進行中であつた論功行賞	51
二 事件一年半後の近衛兵の不満と山縣の態度	55
三 叙勲賞与の可能性の検討	56
第三節 士族出身の壮兵が暴動を起こしたという説の分析	59
一 徴兵と壮兵の状況	59
二 近衛兵が壮兵である可能性	62
三 竹橋事件関係者の出自	65
四 徴兵主体の近衛兵の不満と精神対策	67
第三章 「海陸軍刑律」下の軍人犯罪	75
第一節 明治初期壮兵の状況	75
一 陸軍の壮兵募集	76
二 海軍召集兵	78
第二節 不軍紀状態の分析	79
一 陸海軍の犯罪者の状況	79

二 軍内士族の犯罪率と士族の組織内比率	82
三 海軍の犯罪処理の特殊性	85
四 陸海軍の犯罪状況統計の解釈	94
第三節 西南の役当時の不軍紀と刑罰問題	95
一 不軍紀の実情	95
二 軍の刑罰傾向	102
三 壮兵の犯罪	104
四 西南戦役後の軍紀維持策	107
第四章 軍紀確立のための精神面教育の施策	117
第一節 精神面の施策の方向	118
一 「読法」・「軍人訓誡」・「刑律」・「内務書」の相互関係	118
二 陸軍卿山縣有朋の精神施策	126
三 児玉源太郎の将校養成の教育方針にみられる精神施策	129
第二節 「軍人勅諭」の下賜の際の処置とその後	141
一 「軍人勅諭」の下賜時の陸海軍の処置の違い	141
二 「軍人勅諭」奉読についての陸海軍の違い	145
三 海軍の精神教育の状況	149
四 海軍の精神教育の発展	151
第三節 軍人勅諭、軍人訓誡、読法、軍刑法の相互関係	154
一 「軍人勅諭」と「軍人訓誡」の関係	155
二 新しい「陸軍読法」の制定と運用	158
三 「海軍読法」の消滅	161
四 精神面の教育についての陸海軍の思想の相違	164
第五章 軍紀風紀の取締り制度	179
第一節 「陸軍刑法」・「海軍刑法」の制定	179
一 「陸軍刑法」の制定	180
二 「海軍刑法」の制定	185
第二節 海軍が参謀本部設置問題で陸軍との対等を要求した経緯	190
一 薩摩系海軍軍人の陸軍に対する不満対立問題	191
二 海軍参謀本部の必要性	194
第三節 軍人の政治活動と陸軍の対応	196
一 四將軍上奏事件原因説への疑問	196
二 山縣有朋の意思の影響	197

三 陸軍軍人の政治関与の状況とこれへの対応	203
四 海軍の対応	201
第四節 憲兵制度の発足と指揮官による軍紀取締りの根拠	204
一 憲兵制度の発足	204
二 陸海軍指揮系統による不軍紀取締りの概要	207
三 軍紀風紀を維持する陸軍指揮官の責任	211
四 軍紀風紀を維持する海軍指揮官の責任	217
第六章 精神面を中心とする軍紀風紀維持策の発展と効果	231
第一節 陸軍における精神対策・軍紀風紀維持策の発展	232
一 日露戦争までの軍紀風紀維持のための特別な方策	233
二 日露戦争の体験の中から出てきた陸軍青年将校の意見	234
第二節 海軍における精神対策・軍紀風紀維持策の発展	239
一 大正期海軍の軍紀風紀上の問題点	239
二 日露戦争の教訓による海軍教育本部の精神対策	243
三 社会主義思想への海軍の対策	248
第三節 大正デモクラシー時代の思想対応措置としての精神対策	252
一 精神対策としての在郷軍人会制度	253
二 兵営の家族主義と対社会主義施策の関係	260
三 陸軍の大正デモクラシー対策とされている対策の意味	265
四 陸軍の主義思想流入への対策	279
五 思想問題の背景および軍学校の対応	284
第四節 兵式体操の振興による国民を含む精神振興策	288
一 学校教練開始までの兵式体操	289
二 兵式体操の振興	291
三 学校教練開始の議論	294
第五節 精神教育・軍紀風紀維持策の効果の一検証	299
一 行刑の変化にみる施策の効果	300
二 平時と異質の国家総動員の下での戦場での不軍紀	307
おわりに	327
主要参考文献目録	331

法令達・事件一覽……………343

關係法令等參考資料集……………355

索引……………374

用語索引……………374

主要人名索引……………371